

秋田焼山の火山活動解説資料（令和元年10月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、湯沼の噴気の高さは噴気孔上 70m以下、
叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。梅森監視カメラによる観測では、湯沼で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図3-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年11月分）は令和元年12月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状態（10月17日）

- ・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約2km）の映像です。
- ・湯沼の噴気の高さは噴気孔上70m以下、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

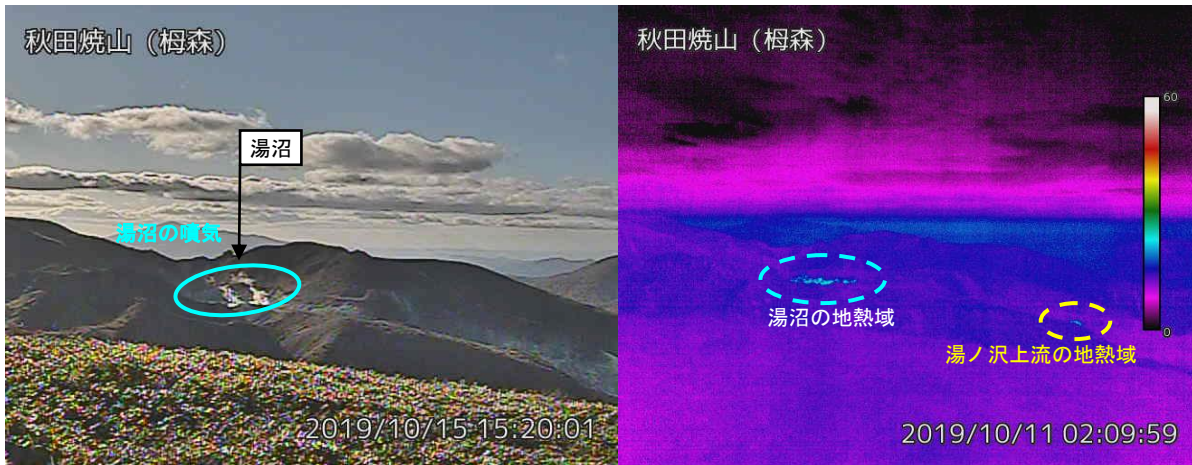


図2 秋田焼山 湯沼と湯ノ沢上流の状況と地表面温度分布（左：10月15日、右：10月11日）

- ・桐森監視カメラ（湯沼の東約1km）の映像です。
- ・湯沼で弱い噴気が認められました。
- ・湯沼（水色破線）及び湯ノ沢上流（黄破線）の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

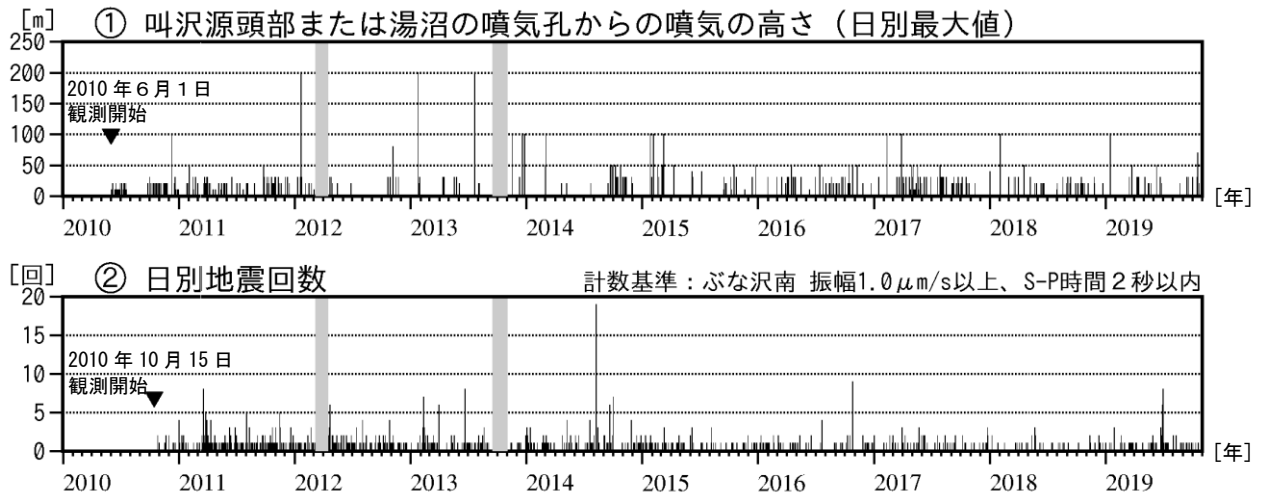


図3 秋田焼山 火山活動経過図（2010年6月～2019年10月）

- ・ 灰色部分は欠測を表しています。
- ・ ②2015年9月以降は山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（2010年から2015年8月までは山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を含みます）

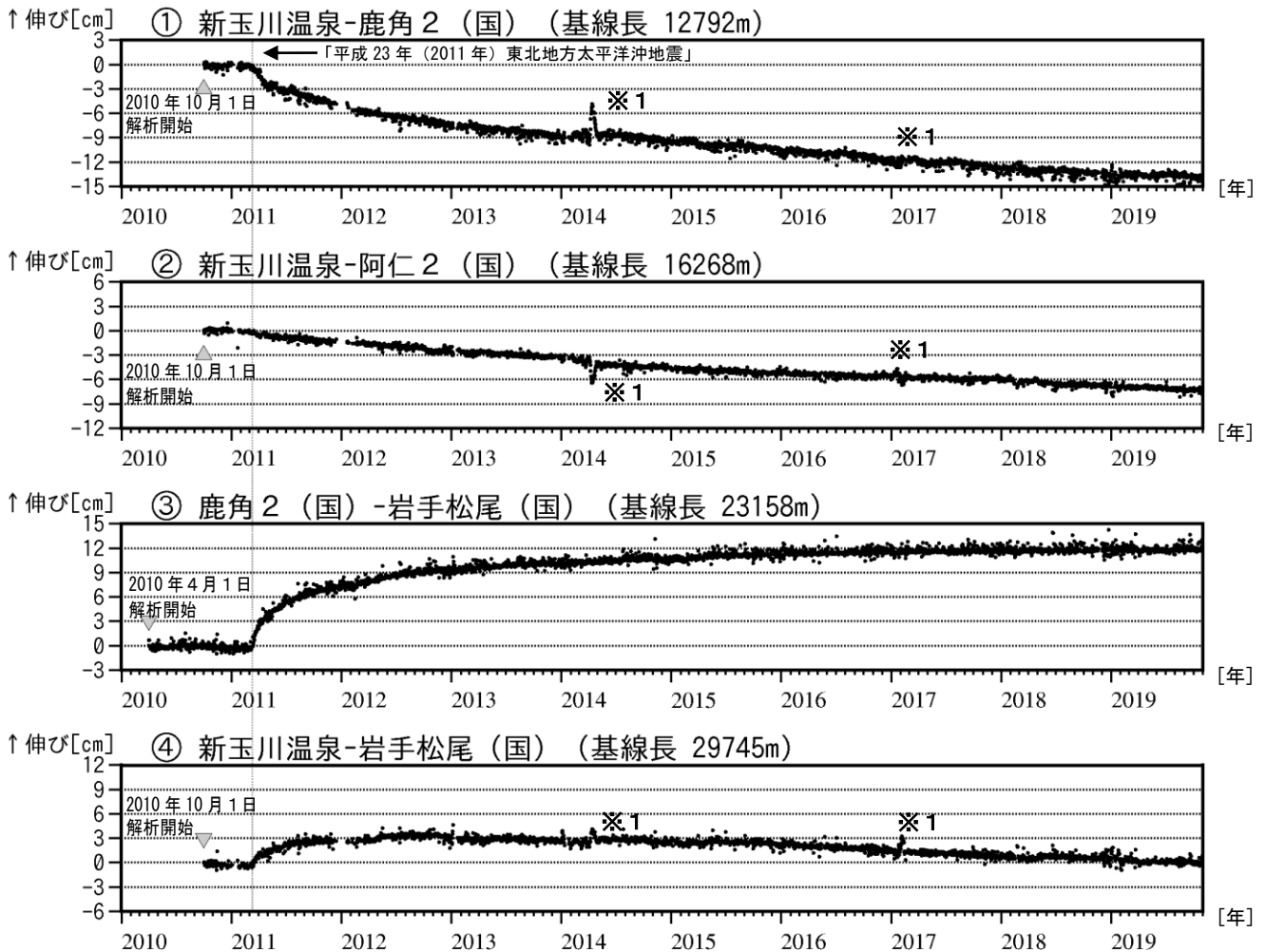


図4 秋田焼山 GNSS 基線長変化図（2010年4月～2019年10月）

- ・ 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・ ①～④は図6のGNSS基線①～④に対応しています。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・ （国）は国土地理院の観測点を示します。
- ※1 2014年3月から4月、2017年1月から2月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。

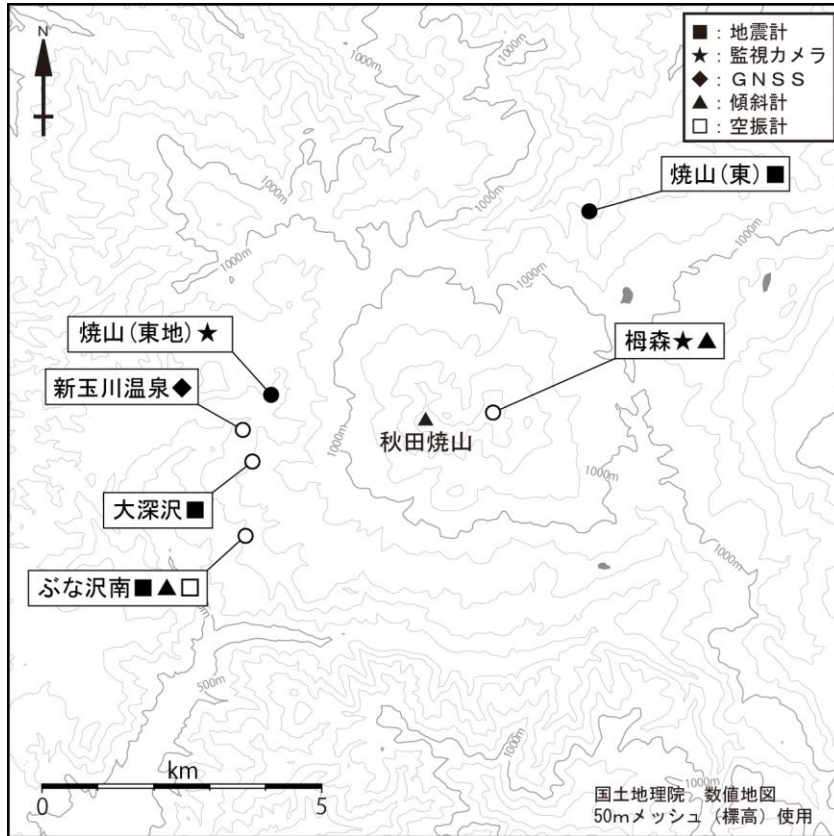


図5 秋田焼山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

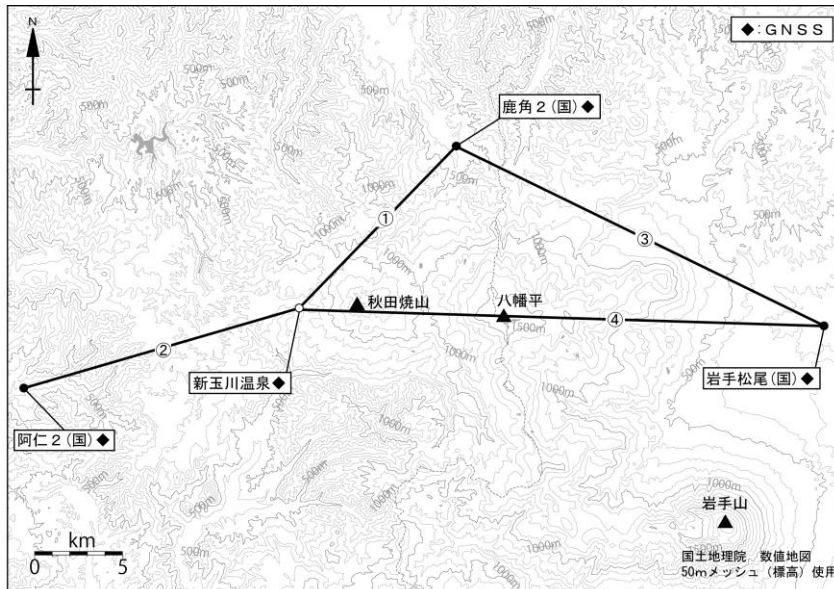


図6 秋田焼山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院